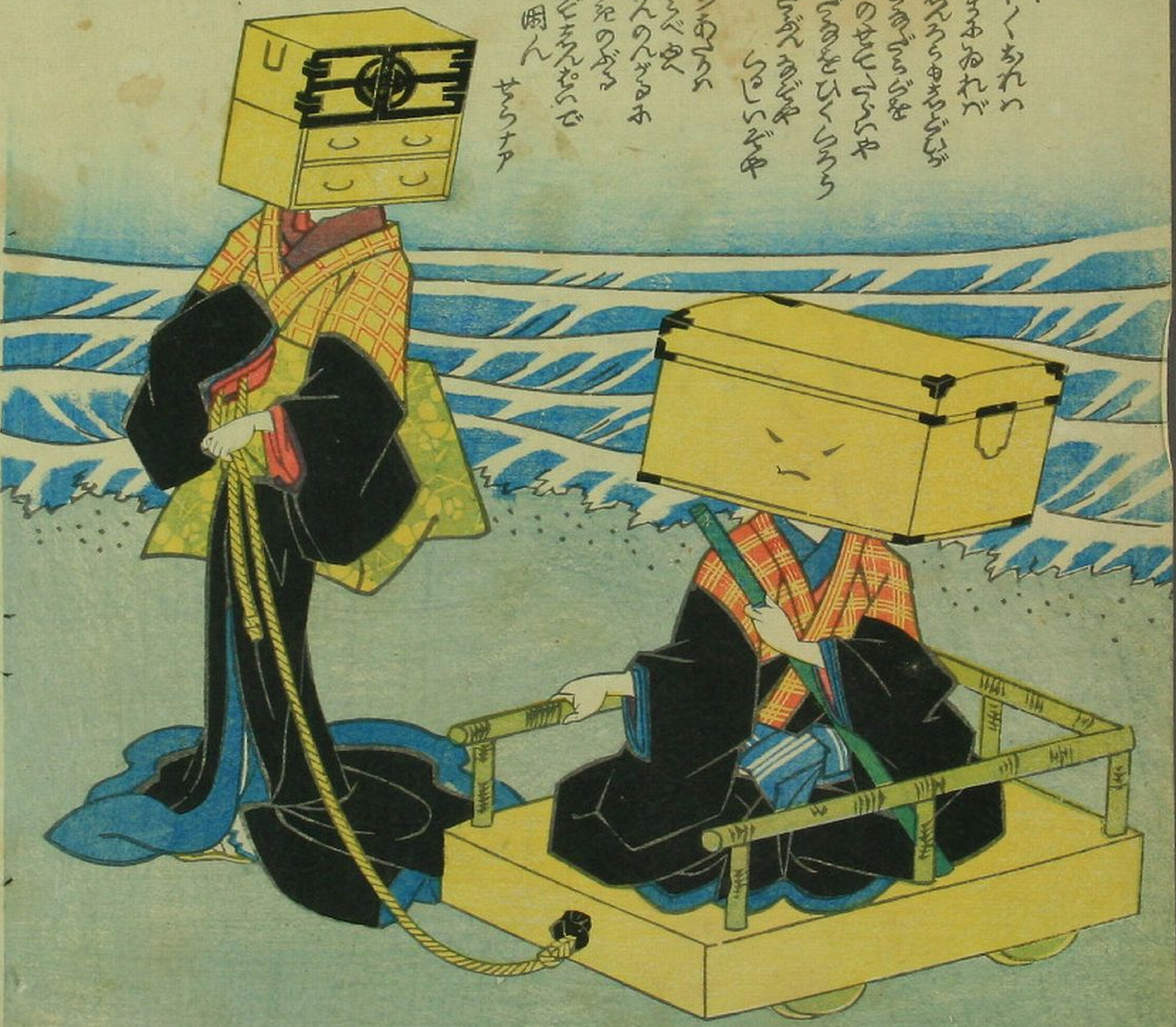
義太夫もじね

〽鶴亀から九郎兵衛にも
こんどハわが里から。
かりとらまの、
いそがしぶせて船
出をせんどうが、
よハる女房に因合
わしの絶不若ろうにお
川てさまらねをさうても
雉子が鳴川こうしそ日がし、
の子なれしもらく啼て引
添ふ飛く飛びへかいも
なる名やうとかいこんで。

〽イヤく あれハ
かるまみぬれが
きんろうもきうどうが
ちょうずうろうを
のせてふらふや
とぶるをひくからう
うずんうずや
かるいぞや

〽かうあかうハ
かくべ心
けんのんがるか
かんのぶる
さうどきんぽで
悶ん
せうナア